教 育 研 究 業 績 書

令和 5 年 3 月 31 日

氏名　前 田　敬 子

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） （再掲） 1　実践保育内容シリーズ「言葉」	共著	平成 26 年 4 月 1 日	一藝社	第 6 章「書き言葉の発達」(62～73 頁) と第 11 章「さまざまな児童文化財」（116～126 頁）の章を執筆した。
（再掲） ２「保育者養成校の言語表現」（三恵社）	単著	令和３年３月	三恵社	全 25 課（100 頁）
（学術論文） 1.　ふた手に分かれるジャンケン「グーパー・グーチーの研究」	単著	平成 21 年 3 月	福井大学言語文化学会 『国語国文学』	子どもが遊ぶとき、二つのグループに分かれるためにジャンケンの手形を使うことがあるが、その掛け声の分布について、福井県嶺北地方を中心に調べ、全国分布の中でどのような位置を占めるかを確認した。
2.「映像と活字の特性～三島由紀夫『潮騒』を例に～」	単著	平成 22 年 3 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」 第 42 号	小説が映画化されると小説（書籍）も売れ行きが良いようだが、往々にして映像は主人公を中心に進む、単純化された構成に変わることを、小説の描写と映画を比較しながら説明した。小説の多面的な視点や深い心理描写に気づかせる意図をもつ
3.「教職員間セクハラ防止指針に PDCA サイクルを」	単著	平成 22 年 10 月	教育開発研究所『教職研究』 11 月号	女性の地位の低さを表面化しにくい切り口から明らかにしようとした。自治体では文部省（当時）の指導により公立学校の職場環境を守る指針が 1999 年に作られた。だが、歳月を経るうちに指針が忘れ去られ形骸化して、その後の均等法の改正通りに改められていないことを、全国都道府県教育委員会への調査によって明らかにした。 問題の本質が理解されず、再発防止のための研修を行うなどの継続した取り組みが望めないのが現状である。
4.　幼児教育学科学生のジェンダー観	単著	平成 23 年 3 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」　第 43 号	幼児教育学科生の職業への思いや生き方の展望をアンケートによって調べた。本学生活学科学生と幼児教育学科学生、及びＮＨＫ調査結果とを比較すると、生活学科生とＮＨＫ調査結果は似ているのに対し、幼児教育学科生は明らかに異なる。 幼児教育学科学生は、女性に生まれたことを幸福と感じる割合が高く、保育士として就職した後は仕事と子育ての両立よりも自身の子育てを優先したいと回答する割合が高いことが分かった。

5. 童謡と絵本の表現～形容詞と形容動詞～	単著	平成 24 年 3 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」　第 44 号	絵本の形容詞と童謡の形容表現はどのように異なるかを調べた。 絵本は「絵」で表現するために、目で見ればわかる形容の言葉は少ない。 一方、童謡は「耳で聞いて想像する」ために、色や形などの視覚的なイメージを喚起する形容の言葉が多いことを明らかにした。
6. 公立学校教職員間セクシュアル・ハラスメント防止対策の問題点（査読付）	単著	平成 24 年 9 月	日本ジェンダー学会『日本ジェンダー研究』第 15 号	全国４７都道府県教育委員会策定の公立学校を職場とする職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント防止のための指針等の文面が、男女雇用機会均等法に基づく厚生労働大臣指針の条件にどの程度合致するものかを分析し、相談窓口の不備と現状ふまえた改善策の欠如等の課題を明らかにした。
7. 公務職場のハラスメント防止対策	共著	平成 25 年 3 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」　第 45 号	福井県内の県庁市役所と、近隣県も含めた大学短大の対策の現状についてまとめた。役所の縦割りの弊害をよそに、大学では先進的で堅実、継続的な取り組みが見られた。 共著者　木下由香　前田敬子
8. タオル人形作りと人形劇	単著	平成 25 年 9 月	全国保育士養成協議会第 52 回研究大会「研究発表論文集」（ポスター発表も兼ねる）	保育者が幼児の興味関心を引くためには、手作り人形が有効と考え、フェイスタオル一枚を使って、手軽で安価に作れる手人形作りを実践した。更に学生の創作脚本による人形劇に展開させた。そして、その授業実践を研究大会で発表した。 だが「子どもの文化」の受講者は 1 教室 60 名を超えた。裁縫も簡単な作業とは言え、能力に個人差が大きい。授業時間内に安全且つ円滑に作業を進めることが困難と判断し、この企画は２～３年間で止めた。
9. 子どもの絵に表れる物語理解～表現の保幼小連携～	単著	平成 26 年	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 46 号	幼児が物語をどのように理解しているか。福井市及び越前市の幼稚園・保育園、福井市の小学校の協力を得て、お話の絵を子どもたちに描かせた。文字が書けなくてもお話を耳で聞いて絵に描くと、理解のほどが現れる。実生活体験を土台にお話を理解できるため、幼児期には生活体験を豊かにするように心がけることが望まれる。小学校低学年では生活体験も一層豊かになり、豊かに想像して絵に描くことができる。 共著者　山田康貴　前田敬子
10. パネルシアター「平仮名いろいろぺったんこ」～文字の保幼小連携～	単著	平成 26 年９月	全国保育士養成協議会第 53 回研究大会「研究発表論文集」（ポスター発表も兼ねる）	平仮名の形で捉え、似た文字の色を揃え、筆順の同じ字にも着目させる工夫を施したパネルシアターである。P ペーパーの特徴を生かし、濁音や半濁音の重ね貼りをはじめ、何度でも貼ったり剥がしたりを繰り返すことができ、平仮名本体もとても軽くて丈夫である。 鉛筆などの筆記具がまだ持てない幼児も、遊びながら文字が読めるようになる。

11. 「書くこと」の保幼小連携	単著	平成 27 年４月	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 47 号	保育者と小学校第 1 学年担当教諭にアンケートを依頼し、連携の問題点を明らかにした。 幼児教育でどこまで文字に親しみ、どこまで書く能力が必要なのかが曖昧である。「幼稚園では教えないで」と小学校教諭から釘をさされるという声まである。一方、子どもは早く書きたがるので、筆順や鉛筆の持ち方は正しくないまま固定されてしまう。 短大生の筆順や鉛筆の持ち方にも不適切な例が多い。保育者養成の指導の改善を図る示唆を得た。
12. 登美子の冒頭破調表現～内部韻律の開拓～	単著	平成 26 年 3 月 10 日	福井大学言語文化学会 『国語国文学』第五十三号	山川登美子の歌には、上の句を対句仕立てにする形がある。その形式がいつの時期にどれだけ表れるかを明らかにした。新詩社『明星』に投稿を始めた頃から、登美子は伝統に無い、新しい韻律を求めており、むしろ漢詩に近い対句形式を晩年に至るまで保っていたことがわかった。
13. 『恋衣』再版の意図（査読付）	単著	平成 27 年 12 月 22 日	お茶の水女子大学国語国文学会 『国文』第百二十四号	山川登美子の生前唯一刊行された詩歌集『恋衣』は、初版からわずか 2 か月で再版が出た。再版では歌の一部を入れ替えた。 新詩社内部の反省や新詩社から外部批判への回答が、当時の評論から読み取れること、晶子『みだれ髪』が版を改める際に、特徴的で難解な表現を削除していることを根拠に、『恋衣』歌の入れ替えも「難解」「小主観」を反省し、欠点を緩和することによって、新詩社の姿勢を世に問う意図があったと考えられる。
14. 学生の「読み聞かせ」の実情と課題～「心の理論」をふまえた伝え方～	単著	平成 29 年 3 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 48 号 第 1 回日本保育者養成教育学会	学生にとって読みやすい絵本とそうでないものがある。実習時の学生の読み聞かせの振り返りを集積し、成功しやすい絵本とそうでない本を明らかにし、難しさの在り処を探った。 幼児が他者の心を理解できて初めて理解できる話がある。心理学を学んで「心の理論」を理解することが絵本選びにも必要である。また、登場人物のそれぞれの思いが伝わるような読み聞かせ時の音声化のスキルも、授業を通して養っていきたい。
15. 創られた山川登美子像～『恋衣』「白百合」の方法～	単著	平成 29 年 3 月	福井大学言語文化学会 「国語国文学」第五十六号	山川登美子の『恋衣』収録歌に対する与謝野鉄幹の二度の添削を検証した結果、登美子の自筆稿本『花のちり塚』は『恋衣』編纂資料として用意された原形の集と分かった。 『花の…』『明星』『恋衣』三者の呼応から、『恋衣』収録時、鉄幹は『明星』掲載時の添削経験の無い新しい歌を見つけては直し、『明星』掲載歌も再度直した。その過程で晶子とは異なる登美子の印象が創られた。 平成 28 年 12 月 3 日の口頭発表をもとに活字化した。

16. 保育者養成校における実習礼状指導の課題	単著	平成 29 年 4 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 49 号	初回礼状に満足する学生は６割、４割は不満という。不満を解消する指導はどのようなものか。難しさは直接に指導を受けた担当者でなく園長に宛てる点にある。学生は相手を複数人、教育機関と認識しないため「(誰それ) をはじめとして」の意味を理解しない。封筒表記を高校で習う割合も全体の 25%に過ぎない。 筆者 (指導者) も礼状の特殊性を把握し、重要な点を集中的に伝えるべきであった。封筒表記見本 (実物大) も与えたい
17. 年長児の手紙の深慮表現～幼小接続の観点から～	単著	平成 30 年 4 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 50 号	年長児の手紙には、相手の心に焦点を絞る例がある。相手の立場に立ち、相手を励ましたり喜ばせたりする内容、理由や条件付けによって相手に理解を求める内容など、書字能力の完成期を迎えた幼児は、書き言葉を駆使して読み手の心を動かそうとしている。
18. 子どもと関わることば･社会人としてのことば	単著	平成 30 年 4 月	福井県内保育者対象アンケート調査研究報告書	本学卒業後 6 年未満の保育者は、本学の学びへの評価が高い。経験年数につれて、必要とされる能力も変化していくが、本学卒業生の必要性の認識は、現場の管理職の認識に近い傾向がある。
19. 保育者養成校「考えを形成する」文章表現～論理的文章と保育の記録・「～と思うので…と思います」「～のでいいと思います」を起点に～	単著	平成 31 年 4 月	「仁愛女子短期大学研究紀要」第 51 号	保育者養成校の文章力向上のためには、論理的文章の書き方や考え方と保育の記録の書き方や考え方との違いを、教員のみならず学生自身が理解することが肝要であるとの考えから、主に①「事実」の描き方、②事実の切り取り方、③事実に基づく考察の文末表現などを論じ、教員の指示としては学生の考えを形成するための思考の補助線を必要とすることをまとめた。
20. 山川登美子『花のちり塚』裏表紙不明文字の解読（査読付）	単著	平成 30 年 11 月	日本近代文学会『日本近代文学』第 99 集	明治時代『明星』の女流歌人、山川登美子の自筆稿本『花のちり塚』の裏表紙には不明の文字があったが、解読できた。そのことにより、『花のちり塚』は、『恋衣』の下書きの集として用意されたのでなく、結果として、『恋衣』の編纂資料になったと考える。
21. 金子みすゞ「歌へる」形式　～連単位の対比と視点の置き方～	単著	平成 31 年 3 月	日本児童文学会『児童文学研究』第 51 号	金子みすゞの作品は詩でなく童謡のジャンルであるが、西條八十の曲譜を元に、連単位の対比を整えるとともに、その内容に反論･挑戦する作品を残している。みすゞの作品を時系列に追うと、視点の置き方の変化が見られ、はじめは交差する視線で描き、後には並行する視線で描き、晩年には自己を見つめる視線にたどりつく。『南京玉』や作品「林檎畑」にも言葉の音楽的要素への着目が窺われる。
22.「図書館を利用した学習」～学習に図書館を組み込む～	単著	令和 4 年 3 月	私立短期大学図書館協議会『短期大学図書館研究』第 40・41 合併号	仁愛女子短期大学図書館を、附属幼稚園や保育実習、授業と結ぶ教育活動をまとめた。書籍を利用するほかに、場所としての図書館の利用 (授業の前に閲覧の場として利用したり、後に作品展示に利用したりするケース) を整理した。

23. 金子みすゞ・創作の種と転調	単著	令和４年３月	日本児童文学会『児童文学研究』第５４号	金子みすゞが白秋の作品をもとに内容を摂取して、新しい作品を創ったこと、また内容だけでなく白秋の四四五調の韻律も摂取して、自身で工夫して新しい作品を創った。四四五調と七五調を組み合わせて、作品で言わんとする中身を効果的に伝えている。
24. 10 年間の蓄積「実習読み聞かせ振り返りシート～オンライン入力及び検索～	単著	令和５年３月	第７日本保育者養成教育学会	学生の読み聞かせ振り返りシートを次の読み聞かせに活かすシステム作りをして、オンライン化を図った。
（その他） 1. つるにょうぼうの研究		平成 22 年２月	日本児童文学学会	矢川澄子再話・赤羽末吉絵「つるにょうぼう」の形容詞の特徴を口頭発表した。
2. 働く女性の環境について～公立学校セクハラ防止指針～ワークショップ		平成 23 年７月	日本女性学会	男女雇用機会均等法に基づく厚生労働大臣指針と 47 都道府県教育委員会策定の公立学校を職場とする職員を対象としたセクシュアル・ハラスメント防止のための指針等が、どのような関係にあるかを論じた。
3. 文章の視点と形容詞の意味		平成 24 年６月	福井大学言語文化学会	小学校の国語教科書の文学的文章を題材に形容詞・形容動詞の意味の違いを『分類語彙表』に基づいて行った。また、形容詞・形容動詞に含まれる評価のはたらきが、文章の視点とともにどのような特徴をもって、各学年を推移しているかを分析した。
4. 読み聞かせ振り返りシート～附属幼稚園、学校図書館、学生を結ぶ～		平成 29 年３月	第１回日本保育者養成教育学会	附属幼稚園の資料を基に学生は絵本を選び読み聞かせをするが、実習の読み聞かせをそのままで終わらせず、シートに記録し、蓄積したデータを後輩たちの絵本選びに活かすシステム作りをした。附属幼稚園や附属図書館と学生の学びを連携させる試みである。 学生は、図書館のコンピュータで検索して、何歳児に何を読んだとき幼児がどのように反応したか、学生がどのように自己評価したかを事前に知ることができる。
5. 山川登美子の目覚め～『花のちり塚』裏表紙不明文字の判読から～		平成 29 年 10 月	日本近代文学会秋季大会	これまで判読し得なかった文字の判読から、歌人山川登美子の自己を発見していく過程に迫った。
6. 金子みすゞ「童謡」から自己投影の詩へ～交差する視線から自己を見つめる視線へ～		平成 29 年 11 月	日本児童文学学会秋季大会	西條八十の童謡等との比較しつつ、金子みすゞの童謡創作の手法を縦断的にたどり、その独自性に迫った。